

委員派遣実績報告書

平成30年11月16日

米子市議会議長様

市民福祉委員会

委員長 西川章三



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	市民福祉委員会
期 日	平成30年10月31日から平成30年11月2日まで
視 察 先 及び視察 内 容	10月31日(水) 【視 察 先】東京都千代田区 【視察内容】保育所、小学校、公民館等の複合施設における取 り組みについて 11月1日(木) 【視 察 先】神奈川県小田原市 【視察内容】生活保護行政改善の取り組みについて 11月2日(金) 【視 察 先】埼玉県春日部市 【視察内容】認知症初期集中支援チームの取り組みについて
参加者名	・委員長 西川章三 ・副委員長 伊藤ひろえ ・委 員 員 奥岩浩基、尾沢三夫、土光 均、戸田隆次、 前原 茂、又野史朗 ・随 行 議会事務局 庶務係長 柄川英彦
経 費	699,610円
委 員 会 所 感	別紙のとおり

委員会所感

1. 10月31日 東京都千代田区

「保育所、小学校、公民館等の複合施設における取り組みについて」

(1) 視察の目的

本市は、公共施設等総合管理計画に基づき、更新・統廃合・長寿命化を計画的に行うこととしている。直近では、保育所等施設の統廃合が検討されており、地域で説明会が行われている。そうした中、今後、本市における施設管理や更新、統廃合等の参考とするため、千代田区にある複合施設（小学校・幼稚園・保育園・児童館・図書館）：昌平童夢館を現地調査した。

(2) 視察（説明）要旨

千代田区では、業務地化の進行と著しい地価高騰により、定住人口が減少し、コミュニティの衰退、学校の過小規模化等の問題が生じていた。そこで、魅力ある千代田区を創るため、平成3年に「公共施設適正配置構想」を発表。小学校14校を8校に再編し、それに伴い幼稚園も統廃合（千代田区はすべての小学校に幼稚園が併設）、加えて児童館、図書館、保育園を配置し、教育・児童施設をそれぞれの活動に支障がない範囲でコミュニティスクールとしての有効活用ができるようにと昌平童夢館を建設した。

(3) 主な質疑応答

Q1 開閉ドーム式屋上校庭のメリット、デメリットは何か。

A1 雨天でも運動会を開催することができるなど利便性は高いが、年間約1億円もの維持管理コストがかかる。

Q2 防犯・防災等に係る安全面についてどうか。

A2 平成8年当初は地元が開かれた学校として、いつでも誰でも入れるようになっていたが、平成13年に発生した池田小事件以後は、図書館に警備員を配置し、他は施設ごとに施錠して安全面に配慮している。また、地域の避難所としての機能も有している。

Q3 統廃合に対する当時の区民の反応は。

A3 区民との合意形成プロセスが不十分であったため、説明を聞いていないとの声が多く、裁判で争われたこともあって、事業は当初の予定から大幅に遅れた。

Q4 多目的ホールの内装は、どのようにして決められたか。

A 4 各町会から構成された運営協議会で出された要望を取り入れた結果、豪華な造りとなった。地域開放型のため、ほぼ毎日区民が利用している。

(4) 視察（説明）要旨に対する考え及び本市への参考となる点

千代田区は、「公共施設適正配置構想」に基づき、将来にわたって安定した学校教育が維持できる規模を想定して施設の再配置を推進してきた。そうした中で建設された昌平童夢館は、幼稚園、児童館、図書館等の施設を複合化し、校庭を屋上に、プールを地下2階に設置し、限られた敷地を最大限に活用できるよう整備された施設であり、地域の避難場所、文化・スポーツ施設としての機能も有している。しかし、今後は屋上開閉式屋根、地下2階に設置されたプール等含め、老朽化に伴う機器の更新が大きな課題となっている。統廃合を検討する上で、施設の維持管理や更新に係る問題、また、住民に対して丁寧に説明していく必要がある等、改めて考えさせられた。

2. 11月1日 神奈川県小田原市

「生活保護行政改善の取り組みについて」

(1) 視察の目的

生活保護行政は、市民のセーフティネットとしての重要な役割を果たす業務であるが、利用者の自立支援に向けての取り組みや利用者の視点に立った業務改善など、担当職員の意識を変えていくことが重要と考えることから、その取り組みについて調査した。

(2) 視察（説明）要旨

平成29年7月に生活保護担当職員が不適切な表記がされたジャンパーを着用していたという反省から生活保護行政のあり方検討会が設置されたが、そこで示された改善策に係る取組状況について、以下事項の説明を受けた。

- ① 援助の専門性を高める研修や連携による学びの場の質的転換
- ② 利用者の視点に立った生活保護業務の見直し
- ③ 利用者に寄り添い、ケースワーカーが職務に専念できる体制づくり
- ④ 「自立」の概念を広げ、組織目標として自立支援の取り組みを掲げる
- ⑤ 市民にひらかれた生活保護を実現する

また、自立支援の取り組みについて、就労形態やその事業効果などの説明を受けた。

(3) 主な質疑応答

Q 1 業務改善の成果は。

A 1 富士通のフィールド・イノベーションを導入し協働で進めた結果、電話当番制を取り入れるなどにより、個々のケースワーカーの負担を軽減することができた。

Q 2 生活保護を担当する課は職員が嫌がる職場というイメージがあるが改善は図れたか。

A 2 職員の意識を変え利用者の立場に立って考えることで、利用者のニーズが把握しやすくなり、ケースワーカーのモチベーションも上がるという好循環につながった。したがって、以前と比べ職場環境は改善されていると考える。

Q 3 職員が抱えるケースはどの程度か。

A 3 以前はケースワーカー1人あたり最大150ケースを抱えることがあったが、職員補充により、現在は80ケースまで減少した。

(4) 視察（説明）要旨に対する考え及び本市への参考となる点

小田原市では、不正受給を取り締まるという強い思いが不適切な対応につながった事例を教訓とし、当事者も検討会委員に加えた生活保護行政のあり方検討会を設置、支援団体とも意見交換をして検討を重ね根本的に見直したとのこと。被保護者とケースワーカー、互いの信頼がない中での支援は難しいことから、小田原市のように「受給者」を「利用者」と捉え、利用者の立場を理解しようとする考え方は参考となった。

本市では市民に開かれた生活保護を実現するという視点が弱いことから、小田原市が行う市民向けアンケートの実施や生活保護行政のあり方シンポジウムの開催等の取り組みも大いに参考になった。さらに、わかりやすい保護のしおりの作成や、第3セクターによる中間的就労で社会的な自立を促進させた例や、扶養調査は年4回から1回にするなど利用者の立場に立ち業務改善に取り組めたことなどの説明を聞き、本市に活かしていきたいと思った。

3. 11月2日 埼玉県春日部市

「認知症初期集中支援チームの取り組みについて」

(1) 視察の目的

認知症初期集中支援チームの取り組みは、在宅医療介護連携とともに地域支援事業の柱として位置づけられているが、本市ではその取り組みが全体に広がっているとは言いがたい。地域

ケアシステムの確立にとってチームの役割は重要であることから、春日部市の先進的な取り組みについて調査した。

(2) 視察（説明）要旨

春日部市は、都心から1時間という環境にありベッドタウンとして栄えてきた。しかしながら、高齢化率は29.9%と高く、市内にある武里団地の高齢化率は45%と更に高い。

認知症初期集中支援チームは、制度改正により31年までに設置することとされているが、春日部市は、市内にある武里病院が認知症疾患医療センターということもあり、比較的早く平成27年に当該病院に設置している。認知症は早期発見・早期治療が必要なことから、受診につなげるような取り組みを進めている。

(3) 主な質疑応答

Q 1 若年性認知症の人に対して、どのようなサポートを行っているか。

A 1 県が主体となって実施していることから、十分な説明ができない。

Q 2 認知症の早期発見への取り組みについて。

A 2 認知症の初期症状を見つけるのは非常に困難なことではあるが、市民からの情報提供を受けた地域包括支援センターが戸別訪問し、対象者の受診状況や介護サービス受給状況、地域からの苦情内容などの調査を行い、早期発見に努めている。

Q 3 早期発見のため、スクリーニング検査や健診時に追加で認知症健診等を実施できないか。

A 3 受診につなげることが重要で、例えばスクリーニング検査をするとしたら国が全国一律に実施すべきだと考える。

Q 4 地域包括支援センターは直営か委託か。

A 4 全て委託である。

Q 5 オレンジカフェの開催状況は。

A 5 市から地域包括支援センターに対し、毎月1回以上の開催を依頼しているが、各カフェ20名程度が集まりやすい場所、公民館のほか老人ホームや民家など様々な場所で継続して開催いただいている。

(4) 視察（説明）要旨に対する考え及び本市への参考となる点

埼玉県の場合、医師会が率先して在宅医療介護連携を行ってきたことや、春日部市の場合は悉皆医療センターとして認知症の取り組みをモデル地域で進めてきたことなど、医師がキーマンとなり牽引してきたという強みがあった。医療介護連携の拠点である春日部市地域包括ケアシステム推進センターにおいても、そのセンター長を医師が務めていることから、医師会との連携協力は重要だと考える。当該センターでは、「春しん」という機関誌を発行し、医療・介護など多職種連携を積極的に進め、それを広めていることも参考となった。

春日部市では、認知症の理解が重要だとの観点から、サポーター講座の開催や中高生など低年齢のサポーター養成も考えていると伺った。また、認知症初期集中支援チームは、受診しない市民に対し、往診したこともあったほど熱心で、独居で本人が受診を嫌がるケースなどは健康課や地域包括支援センターが戸別訪問し、身内を探し受診につなげているとのことだった。

市民福祉委員会行政視察行程表

◎参加者9名〔委員8名・随行者1名〕西川委員長、伊藤副委員長、奥岩委員、尾沢委員、土光委員、戸田委員、前原委員、又野委員 随行者：柄川議会事務局庶務係長

月 日	行 程	宿泊地
10/31 (水)	<p>9:00 10:15 11:08 11:29 11:37 11:47 米子空港 ----- 羽田空港 ===== 浜松駅 ===== 秋葉原駅 **** 区立昌平小学校 ANA384便(東京行) 東京モノレール JR山手線内回り 徒歩</p> <p>◎東京都千代田区行政視察 (午後1時30分ごろから1時間半程度) 【議会事務局】 【調査項目】「保育所、小学校、公民館等の複合施設における取り組み」について ☎03-5211-4295</p> <p>16:00 16:18 秋葉原駅 ===== 新宿駅 JR総武線・中野行</p>	サンルート 東新宿 ☎03-5292-3610
11/1 (木)	<p>10:41 12:11 13:05 13:15 新宿駅 ===== 小田原駅 小田原市役所 小田急小田原線快速急行・小田原行 タクシー</p> <p>◎神奈川県小田原市行政視察 (午後1時30分ごろから2時間程度) 【議会事務局】 【調査項目】生活保護行政改善について ☎0465-33-1761</p> <p>16:07 17:45 18:00 18:34 小田原駅 ===== 新宿駅 ===== 大宮駅 小田急小田原線快速急行・新宿行 JR埼京線通勤快速・川越行</p>	マロウドイン 大宮 ☎048-645-5111
11/2 (金)	<p>8:10 8:32 8:32 8:45 大宮駅 ===== 春日部駅 **** 春日部市役所 東武アーバンパークライン・柏行 徒歩</p> <p>◎埼玉県春日部市行政視察 (午前9時00分ごろから1時間半程度) 【議会事務局】 【調査項目】認知症初期集中支援チームの取り組みについて ☎048-736-1111 (内線3114)</p> <p>11:18 11:58 12:06 12:48 15:00 16:25 春日部駅 ===== 押上駅 ===== 羽田空港 ----- 米子空港 東武スカイツリーライン急行・中央林間行 都営浅草線快特・羽田空港国内線ターミナル行 ANA385便</p>	/

旅費計算表

平成30年10月31日 ～ 平成30年11月2日 (2泊3日)

月日	区間	鉄道路線名	運賃	備考	急行料金		日当宿泊料		
					特別	新幹線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
10/31	米子空港～羽田空港	飛行機	24,000				1,500		14,800
(水)	羽田空港第2ビル～浜松町駅	モノレール	490				1,100		10,900
	～秋葉原	JR	160						
	秋葉原～新宿	JR	170						
11/1	新宿～小田原	小田急	880				1,500		13,300
(木)	小田原～新宿	小田急	880				1,100		9,800
	～大宮	JR	470						
11/2	大宮～春日部	東武	310				1,500		
(金)	春日部～押上	市営	470				1,100		
	～羽田空港	都営	660						
	～米子空港	飛行機	17,600						
計	議員旅費		78,690	46,090		0	0	4,500	28,100
	随行旅費		70,090	46,090		0	0	3,300	20,700

出席議員：西川委員長、伊藤副委員長、奥岩委員、尾沢委員、土光委員、戸田委員、前原委員、又野委員

随行者：柄川議会事務局庶務係長

議員	78,690 × 8名 =	629,520
随行	70,090 × 1名 =	70,090
合計		699,610

東京都千代田区・神奈川県小田原市・埼玉県春日部市
市民福祉委員会行政視察